

宮城県民の皆さん

— 県民大集会にご参加くださるよう呼びかけます —

— 被災地宮城からの発信 —

「安倍政権に、私も言いたい！」宮城県民大集会
ともに声をあげよう、平和で安心して暮らせる社会のために

私たちは、来る5月25日、仙台市西公園にて『安倍政権に、私も言いたい！』宮城県民大集会を開催いたします。広く、県民の皆さんにご参加を呼びかけます。

東日本大震災から3年がたちました。

一日も早く、誰もが安心して暮らせる社会を取り戻すことは、宮城県に生きる私たちにとって、とりわけ切実な課題です。

大震災からの復旧・復興、被災者支援・福島第一原発事故による放射能被害に、政治はどのように向き合ってきたのでしょうか。残念ながら、安倍政権の進める政治は、私たちの願いとは逆の方向に向かっています。

原発推進、消費税増税、福祉の削減、「愛国心」教育、TPP推進、労働法の改悪や貧困と格差の広がりなど、なんのため、誰のための政治なのか、私たちは今こそ、しっかりと問わなければなりません。それは今と未来に責任を持つ主権者としてのつとめです。

さらに重大な問題は、安倍首相はまっしぐらに、戦争をできる国づくりに向かっていることです。

昨年末、「特定秘密保護法」の成立を強行した安倍首相は、現在開会中の国会で、戦争できる国づくりをめざす「集団的自衛権の行使容認」にむけて、「決めるのは、私だ」とばかりに強硬な姿勢を貫いています。憲法が制定されて68年間、海外に自衛隊を出さないという大原則が崩されようとしています。どんな時も、自衛隊が「海外で一度も他国の人々に銃を向けてこなかった」という事実の重さの上にこそ立つべきではないでしょうか。

民主的な政治の有り方や、「憲法が政治権力を縛る」とする近代国家の基本である立憲主義を無視、否定しかねない安倍政権の「暴走」に対し、与党の閣僚経験者たちからさえ、日本をどこに導こうとしているのか、懸念、危惧する声が高まるに及んでいます。

私たちは、恒久平和を誓った憲法九条のもと、戦争につながる道を歩いてはなりません。それは今と未来に責任を持つ主権者としてのつとめです。

未曾有の大震災を経験し、平和で安心して暮せる日常の大切さをかみしめた宮城県民の私たちだからこそ、いのちを軽視し、暮らしをこわし、子どもたちの未来を奪う安倍政権への不満、不安、怒り、「おかしい、一言、言いたい!」の思いは切実です。

その思いを一堂にし、みんなで声に出して、大きく、大きく発信しましょう。

被災地宮城から、闇夜を照らすたいまつを高く、高く掲げましょう。

広く、県民の皆さんにご参加をよびかけます。

2014年3月26日

「安倍政権に、私も言いたい!」宮城県民大集会実行委員会